

## 2 月度学術講演会

日	時	2月15日(土)午後2時
演	題	造血幹細胞移植と地域連携
講	師	大阪市立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学 教授 日野雅之 先生
出	席	者 数 9名
担	当	富永良子
共	催	大阪市立大学

### (1) 同種造血幹細胞移植とは

抗癌剤治療だけでは治りにくい白血病などに対して、超大量の抗癌剤や全身放射線治療(前処置)を行った後に、ドナーから提供された骨髄や末梢血や臍帯血を移植し、ドナーの血液に変える治療法です。抗癌剤や放射線の力だけでなく、ドナーの細胞の免疫の力によって白血病細胞を攻撃する GVL 効果によって病気を治します(図 1)。しかし、同種造血幹細胞移植には、ドナーの細胞が患者の体を攻撃する移植片対宿主病(GVHD)や GVHD を予防・治療するための免疫抑制剤とステロイドのため感染症が起こったりと様々な合併症があります(図 2)。

### (2) 移植後長期フォローアップ(LTFU)と地域連携

退院した後も、慢性 GVHD などの合併症により生活の質(QOL)が落ちてしまうこともあります。慢性 GVHD の症状は、ドライアイ、ドライマウス、慢性の肝障害、ネフローゼ症候群、閉塞性細気管支炎、関節拘縮、皮膚硬化、朝の手のこわばりなど全身どこにでもおこります(図 3)。当科では長期フォローアップ外来で慢性 GVHD など晩期合併症のチェックやセルフケアの指導などを専門の研修を受けた看護師とともに行っていきます。

移植後1年以上経過し、免疫抑制剤もステロイドも服用しておらず、GVHD などの合併症もない安定している患者さんは通常の方と同様に診療していただいても大丈夫です。このような患者さんを地域の先生方と連携して診療していくために、厚生労働省と日本造血細胞移植学会は地域の先生方との情報共有ツールとして「造血細胞移植患者手帳」を作成しております(図 4)。もし、GVHD の悪化や帯状疱疹などの感染症を診られた場合は、移植施設にご紹介いただければ幸いです。なお、ご心配であれば、当科に設置しております「造血幹細胞移植地域連携支援センター」(図 5)にご相談いただくことも可能です。

今後ともよろしく申し上げます。

### (参考)

移植拠点病院のホームページ：<http://isyokukyoten-ocu.jp>

造血幹細胞移植地域連携支援センターホームページ：<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/labmed/rcsc/>

造血細胞移植施設マップ検索システム：<http://hctnavi.sakura.ne.jp/hospmap/index.php>